

第6回北海道プライマリ・ケアフォーラム

抄録集

ワークショップ第1部 (13:00-14:20)

<① 学生企画> 講師：倶知安厚生病院 木佐健悟先生

【タイトル】「プライマリ・ケアでの臨床推論入門」

【紹介文】 病歴、身体所見から診断し、治療方針を立てる診療の基本をカンファレンスで疑似体験していただきます。

【抄録】 学生企画では、病歴、身体所見から診断し、治療方針を立てる診療の基本を疑似体験していただきます。臨床推論を中心に、カンファレンス風に進行します。入院が必要な症例で、入院中に薬剤調整や退院支援を必要とする場面も出てきますので、医学生以外にも薬学生などの職種でも勉強になると思います。

医学的知識が無くても内容についていけるようにお手伝いしますので、低学年の方でも参加可能です。倶知安厚生病院総合診療科病棟の医師・薬剤師のチームで企画します。お気軽にご参加ください。

<② 医療倫理> 講師：函館稜北病院 川口篤也先生

【タイトル】「モヤモヤよこんにちわ！～多職種で考える臨床倫理～」

【紹介文】 日々の臨床でのモヤモヤに、多職種でどう臨めばよいかを考え、学ぶセッションです。

【抄録】 日々の臨床でモヤモヤしていませんか？モヤモヤすることには倫理的問題があることが多いです。倫理的問題に立ち止まって多職種で考えるには、どのようにすればよいのでしょうか？このセッション終了後にはモヤモヤよこんにちわ！と笑顔で言えることを目指します。

<③ 多職種連携> 講師：ささえるクリニック 永森克志先生

【タイトル】「多職種連携で医者は他の職種からどう思われているか」

【紹介文】 連携において医者は他の職種からどう思われているか？

他の職種からアドバイスをもらい、立ち位置を考えてみませんか。

【抄録】 地域包括ケアシステムでは多職種連携が大事です。でも、どういう対応が正解なんだろう。いろんな職種との連携においての医師の立ち位置はどうしたらいいか、悩んだことはないですか？

医者であるあなたは他の職種からどう思われているんだろうか？

連携の中でいろんな医師を見てきた他の職種（ケアマネージャー、医療事務、看護師、介護職など）からアドバイスをもらいつつ、組織論として医師の立ち位置を考えてみませんか。

ワークショップ第2部 (14:40-16:00)

<④ 身体診察> 講師：手稲溪仁会病院 アイバーキャマック先生

【タイトル】「合理的な身体診察を学ぼう」

【紹介文】 症例を通して、プライマリ・ケアのセッティングで何を考えどのような身体診察をするべきなのかを学ぶワークショップです。

【抄録】 医学生の皆さんの中には、OSCEで診察の仕方は一応学んだけれど、それが実際の臨床でどのように活かせるのか分からない方、また研修医の皆さんの中にも身体診察が苦手という方は多いのではないのでしょうか。今回のWSでは、頭痛の症例を通して、身体診察を診療にどう活かすかを楽しく学んでいただきます。そして身体所見を積極的に取りたい、身体診察を診療に活かしたいという気持ちになってもらうことを目指します。

<⑤ アドバンスケアプランニング> 講師：帯広協会病院 伊藤史織先生

【タイトル】「明日から実践できるACP」

【紹介文】当WSではACP(Advanced care planning)についてその歴史や基本的な概念を学びます。

【抄録】患者さんの急変に際して、「事前に本人の意思を確認しておけばよかった」と後悔したことはありませんか？そのような場面を防ぐための、ACP(Advanced care planning)という、患者の価値や目標、嗜好を実際に受ける医療に反映させる枠組みがあります。今回のセッションでは、ACPの歴史や基本的な概念を学びます。職種を越えた様々な立場の皆さんと一緒にACPについての理解を深めましょう！

<⑥ 漢方>講師：勤医協札幌病院 佐藤健太先生

【タイトル】「お手軽漢方のススメ ～外来の難症例を、にわか漢方で快適に攻略しちゃおう～」

【紹介文】小難しい漢方理論抜きで、「主訴」と「見た目」でパッと漢方が選べ、高い勝率で診療が快適になる方法論をお教えします！

【抄録】漢方に興味はあるけどなかなか手が出せないという方、多いですね。脈診や舌診、虚実や表裏、病名でなく証で考えるなど、初学者にはハードルが高いです。

一方で、西洋薬が効かない「手強い症状」の診療で漢方薬も使えると、患者満足度も医師のストレスも格段に改善します！

本WSでは、Commonな「手強い訴え」×「見た目の第一印象」で漢方を選ぶように、ビジュアルや味見も通して学んでいただき、「漢方を処方したい！」という気持ちになってもらうことを目指します。

<学術集会> 16:30-17:30

北海道ブロック支部第3回学術集会 / 第98回北海道医学大会 プライマリ・ケア分科会
一般演題発表。抄録は当日受付で配布いたします。

<学生向け 学術集会並行企画> 16:30-17:30

【タイトル】「語り合おう！あなたにとっての総合診療2018」

【紹介文】学生向けに、先輩医師たちをお招きし、ワールドカフェ形式でキャリアのことからプライベートなことまで聞ける恒例企画です。

【抄録】昨年も多くの学生が参加し、好評を博したこの企画がやってきました！今年も複数の先輩医師をお招きし、キャリアのことからプライベートなことまでワールドカフェ形式で気軽に聞くことができます。普段なかなか聞きづらいことを聞くチャンスかも！？将来のことについて熱く語り合いたい人から進路に悩んでいる人まで気軽にご参加ください！

<基調講演> 17:40-19:00

講師：福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 主任教授 葛西龍樹先生

【略歴】新潟県生まれ。1984年 北海道大学医学部卒業。1992年 カナダ家庭医学会認定家庭医療学専門医課程修了。1996年 北海道家庭医療学センター所長。2006年から現職。2014年 英国家庭医学会最高名誉正会員・専門医 (FRCGP)。2015年 Richard Scott記念講演。2019年 WONCA (世界家庭医機構) アジア太平洋地域学術総会副大会長/学術プログラム委員長。

【タイトル】「次世代の日本のプライマリ・ケアを考える ～世界の家庭医、大学の役割、WONCAの徹底活用法～」

【抄録】なぜ、世界の家庭医療・総合診療やプライマリ・ケアの状況を世界の家庭医たちと学ぶ必要があるのでしょうか。なぜ、大学に家庭医療学やプライマリ・ケアを専門とする部門が必要なのでしょうか。多くのエピソードを紹介しながらこれらの問いへの答えを探りつつ、次世代の日本のプライマリ・ケアで新たに何ができるのか、あなたはどんな役割を担うのか、についてインタラクティブに考えます。あなたの考えを具体的な行動に移すため、2019年5月に京都で開催されるWONCA (世界家庭医機構) アジア太平洋地域学術総会の徹底活用法も提案します。